



検査所だより

令和6年度 第2号
令和6年11月発行

岩手県食肉衛生検査所

TEL : 019-672-4760

FAX : 019-672-4717

〒028-3311 岩手県紫波郡
紫波町犬渕字南谷地 57-20



講習会を実施しました！①～食鳥処理施設～

当所では、県内の食鳥処理施設への立入検査や施設が行う自主衛生管理の外部検証を行っています。また、ブロイラー(肉用鶏)出荷羽数が全国3位の本県においては、食鳥処理施設における衛生管理の徹底が安全安心な食鳥肉の提供を支えています。

講習会では約50名の施設作業の方へ食品衛生の7S及び手洗いの重要性をお話しました。7Sとは①整理、②整頓、③清掃、④洗浄、⑤消毒、⑥しつけ、⑦清潔です。また、手洗いとその後に行うアルコール消毒によって手指に付着している菌数が大幅に減少することについてもお伝えしました。



写真 (株)住田フーズでの講習会の様子

講習会を実施しました！②～いわちく(豚肉処理施設)～

いわちくの豚肉処理施設は令和3年3月に対シンガポール輸出施設として国から認定をとっており、日ごろの衛生管理は当然ですが、年に1回の査察に向けた衛生講習会を行い、さらに衛生的な施設及び処理を心がけております。

今回は写真のように約100名のいわちく豚肉処理業者が査察における注意点や日常の衛生管理及び特に気を付けるべきポイントなどを確認しておりました。

- ① 日常の清掃の徹底(床や作業台、グレーチングや各種容器の内部、作業者の前掛けやナイフ及びナイフ保管庫など)
- ② 緊急時の手順の再確認(手が汚染された場合やナイフ落下時など)
- ③ その他(結露やカビの発生など)



写真 (株)いわちくでの講習会の様子

久慈広域食肉処理場で防疫演習が行われました！

令和6年9月26日（木）に（一社）久慈広域食肉処理場（以下、「処理場」）で、と畜解体作業員を対象に特定家畜伝染病の発生を想定した防疫演習が行われました。今年度は県北家畜保健衛生所（以下、「県北家保」）を4年ぶりにお招きし、豚の特定家畜伝染病についての講話と防護服の着脱練習、処理場による調査連絡体制と場外消毒処理方法の確認が行われました。

県北家保による講話では、豚の特定家畜伝染病である豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫について性状や疫学的知見、と畜場でそれらの病気が発生した場合の基本的な対応方法について説明がありました。特に近年日本で問題となっている豚熱について詳しく説明がありました。



県北家保による講話の様子

防疫にあたって重要な点は、異常にすぐ気づくこと、異常発生時の防疫体制を把握し自分の役割を理解していること、作業終了後の防疫を徹底することと学びました。また、異常発生時には様々な団体、組織との連携が非常に重要となるため、処理場の防疫マニュアルをよく理解しておくことが重要と感じました。

防護服の着脱練習では、県北家保による実演後、と畜解体作業員の方々が2人一組になって実際に着脱を行い、手順や消毒のポイントを入念に確認しました。防護服を着た人は誰かわからなくなるため、背中に所属と名前をマジックで大きく書く必要があることを実感しました。最後に防護服着脱を実演した方が防護服を着終わったときには自然と拍手が起きました。

5月には久慈地域の養豚場において豚熱が発生し、処理場においても豚熱がとても近くまで迫っていることを実感しました。そのため、と畜解体作業員の方々も、真剣な表情で講話を受け、防護服の着脱練習に積極的に取り組んでいました。

今年度の防疫演習は、久しぶりの県北家保を招いた演習であり、と畜解体作業員の中には防護服をはじめて着る方もいました。防疫体制を定期的に確認して作業の意味を理解することや、自身の役割を理解しておくことは、異常発生時に落ち着いて迅速に対応するために重要です。今後も定期的に防疫演習を行い、異常発生時に組織として迅速に対応できるよう備えられたらと思います。



防護服の着脱訓練の様子

全国食肉衛生検査所協議会

北海道・東北ブロック大会に参加しました！！

令和6年11月24日及び25日に、仙台市内において、「第35回北海道・東北ブロック大会」が開催されました。約40名が参加し、調査研究発表、特別講演及び学術講演等が行われました。

第1日目には、総会及び7題の調査研究発表が行われ、当所からも「食鳥処理場の外部検証による評価」について発表しました。演題数は少数でしたが、どの演題もレベルの高い内容で、フロアから活発な質問や意見もあり、見識を深めることができました。特別講演では、厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課の坂東秀紀主査から、「最近の食肉衛生の動向」と題し、食肉衛生・食品衛生行政の現状や、今後の展望について講演いただきました。常日頃、従事している業務の重要性の再認識や、今後の課題が浮き彫りとなり、有意義な内容でした。

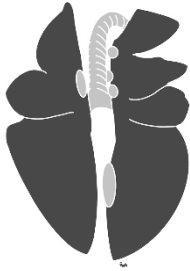
情報交換会では入手困難な地酒が準備されており、地酒を囲んで会話が弾みました。



第2日目は、学術講演として、「家畜と人の一万年」と題し、東京大学総合研究博物館の遠藤秀紀教授の講演があり、なぜ人は家畜を飼うのか、いつから家畜は存在しているのかに焦点をあて、家畜とは何かを再認識できました。



※全国食肉衛生検査所協議会とは、全国の食肉衛生検査所等が会員の緊密な連携のもとに、食肉衛生及び食鳥肉衛生の向上、並びに食肉の安全確保に資することを目的とし、食肉衛生に関する行政施策についての協議、検討及び推進、並びに調査研究事業や学術問題についての協議、検討及び研修を実施しています。現在、全国食肉衛生検査所協議会北海道・東北ブロックは、全21機関が加盟しており、毎年、ブロック大会を開催しております。来年は福島県が担当。



Lung



Heart



Liver



Spleen



Kidney

僕の臓器！



編集後記

▼岩手に来て五年、岩手の良さを存分に味わって暮らしています。岩手の山に登りたいという気持ちがあり、幸いにも職を得ることができてやってきました。そんな岩手に来て、ムムッと感じたことがあります。

▼盛岡からの岩手山の景色は本当に最高ですね。北上川も入れると絵になる、これだけの景色はなかなかお目にかかれませんか。登って大変だったことを思い出しますが。

▼国道4号を車で走っていて信号待ちの時、片側二車線あるのにほとんどの車が左車線に止まっているのを見て、??。

▼石碑や小さな神社・祠をいたるところで見かけます。サイクリングが趣味の私は幹線道路から外れた道を走ることが多いのですが、道路わきに複数の石碑が建てられているのをよく見かけます。神社・祠もよく見ます。生活の糧を農業に依存してきたことから、生きるために作物の豊作と、農耕作業に従事してきた牛馬の健康を祈願してきたのでしょう。

今は農作業に牛馬を使うことはほとんどなく、豚、鶏とともに肉、乳、卵を人のために生産しています。昔日の人々の願いは今も生きています。

こんなことを考えながら岩手の時は過ぎてゆきます。(村松)

